

電子複写不可



沖繩作戦記録

昭二〇八

第一復員局

防衛研修所図書館



作110E

司令部提出用

沖繩作戰概史 記録

第二案

第一案

は
368

目次

- 第一 作戰準備及指揮系統ノ變更
- 第二 作戰思想ニ就テ
- 第三 作戰開始前ノ情勢ニ就テ
- 第四 作戰計畫ノ概要
- 第五 兵團ノ素質
- 第六 築城訓練
- 第七 作戰經過
 - 一 空襲開始ヨリ本島上陸迄
 - 二 敵ノ本島上陸ヨリ主陣地前方ノ作戰
 - 三 第一回總攻撃中止ノ経緯
 - 四 第二回總攻撃中止ノ経緯

五 第三回攻撃ノ経緯

六 敵ノ攻勢發起

七 敵ノ第一回總攻撃ノ頓挫ヨリ五月四日攻勢前迄ノ軍ノ統帥

八 軍ノ航空戦力ヲ期待スル思想ノ變遷

九 最後ノ攻勢開始ト中止ト關スル経緯 経過概要

十 首里最後ノ攻防ト南方地區戦線轉移ノ経緯

十一 島尻地區ノ軍ノ終末戦闘

附 伊江島及國頭方面 戦闘

附圖第一 沖繩作戦經過要圖 (1/4 | 1/4)

附圖第二 全右 (國頭地區) (1/4 | 1/4)

附圖第三 全右 (1/4 | 11/5)

附圖第四 五月四日戦争經過要圖

附圖第五 全右 (1/5 | 1/6)

第一 作戦準備及指揮系統ノ變更

一九四四年三月 米軍マリアナ攻略前大本營ニ於テハ將來沖繩諸島ニ作戦波及ノ時アルヲ考慮シ十號作戦準備ヲ下令セリ

二十號作戦ノ準備ハ南西諸島及臺灣東岸ノ航空基地ヲ強化シ以テ東面航空作戦ヲ九州基地ト相俟ツテ強化

セントスルニ在リ即チ徳之島沖繩本島伊江島宮古石垣各島及宜蘭臺東等ノ航空基地ヲ擴張又ハ新設シ之ヲ確保スルニ足ルベキ地上兵力ヲ配置セントスルニ在リ

三 32Aハ如上ノ目的達成ノ爲三月末西部軍隷下ニ編成セララル(防衛總司令管轄下)

四 西部軍ハ南西諸島ノ作戦準備ニ努力シアリシ所同年

九月ニ到ルヤ南西諸島方面航空作戰ハ臺灣上海地區ノ
一環ニ於テ實施セラルベシトノ大本營ノ見解ニ基キ
宋如第1軍ヲ臺灣軍ノ隷下ニ變更セリ

32A

第二 作戰思想ニ就テ

一、沖繩全般作戰ニ關シテハ大本營ハ作戰準備ノ當初
決戰思想ヲ包懷シタルモ爾後全般ノ作戰推移戰
力新ニ航空ノ船舶就中離島作戰ノ特性ニ鑑ミ一九四五年
初頭ニ於テ敵ニ大出血ヲ強要スル戰略持久ノ思

2
初頭
ニ於テ

想ニ轉移セリ

二、地上配備ノ思想ニ就テ

地上配備ハ十號作戰準備ノ趣旨ニヨリ航空基地ヲ飽
ク迄確保シ己ムヲ得ザルモ敵ノ基地使用妨碍ヲ圖ル

ニ在リ。然ルニ32A作戰案謀ハ各諸島ノ兵力ヲ沖繩
本島ニ集約セリ。思想ニ包懷シ

一九四五年八月頃一高シテ説明セリ。防衛總司令部ニ於テ

ハ近代戰ニ於テ航空基地ノ重要性ヲ説得シ該思想

ヲ取ルベシニザルヲ指導セルモ尚航空基地確保ノ思

想薄ク動カズバ基地ヲ放棄セリ。傾向アリテ

屢々中央ニ指導セラル。所テ是レモ尚修正スル所

ナリ。特ニ32A臺灣ヲ抽出シ後ニ於テ然リ

第三 作戰開始前ノ情勢ニ就テ

比島戰ノ戰勢漸次不利トナルヤ32Aニ於テハ或ハ

一九四五年一月中ニ敵ノ來寇アルヲ豫想シ作戰準備ニ努力

ス。即チ築城ノ進捗ハ平素ハ二〜三倍程度ニ進歩

大本營ニ於テハ比島作戰ノ推移ニ伴ヒ敵ヲ逐冠ハ西
月上旬以降ト判断シテ天號作戰計畫ヲ企劃セリ
三月中旬米機動部隊ハ九州四國方面ヲ空襲セルモ 32A
ニ於テハ之ヲ以テ沖繩本島上陸直前ノ準備空襲ト
判断シアラズ。即チ大本營ヨリノ情報放送ハ單ニ中南
部太平洋方面ノ船團ノ動キ活潑ナリト言フニ過ギズ
且九州四國ノ空襲期間ヨリシテ機動部隊ハ本格的上
陸ノ爲ニハ南~~部~~ウ~~ル~~シ~~ー~~方面ニ歸投補給ヲ要スベシト
判断セルヲ以テナリ。

第 作戰計畫ノ概要

一 全般ノ兵力部署
中繩本島ニハ 2D、徳之島 8B、宮古島 28D、石垣島 1B、南大東

島歩兵一聯隊強ヲ配置シ、宮古、石垣島ハ先島集團長統

轄シ、又徳之島守備隊ヨリ沖永良部島ニ一大隊與論島ニ一

小隊鬼界島ニ一部ヲ派遣シアリタリ。

ニ 本島ノ兵力配置

(1) 首里周邊ニ 62D、知念半島ニ 44B、喜阿武方面ニ 24Dヲ配置ス

ルニ三點防禦ノ思想ニシテ、小線附近ハ海軍守備隊約

八〇〇ヲ以テ同方面ノ防禦ヲ担任セシム

(2) 本島北部方面ニハ國頭支隊(二大隊)ヲ配置シ地形ヲ利用

シ遊撃戰ヲ實施セシム。國頭支隊ノ内一大隊ハ伊江島

守備ノ爲派遣セラレタリ。

(3) 北中飛行場方面確保要領

62Dヨリ賀谷大隊ヲ中飛行場方面ニ、又臨時ノ軍隊區分

ヲ以テ航空壕區諸部隊ヲ合 特北第一聯隊長航空地

隊

連司令官青柳中佐ヲ編成シ、北飛行場方面ヲ守備セシム。9Dハ以前ニ於テハ24Dハ全カヲ以テ、北中飛行場方面ノ防禦ニ當リシガ、先年未9D抽岌後ニ於テハ本島南部地區ノ防禦力薄弱トナリシ爲、軍ハ24Dヲ南部地區ニ轉用シ、上記ノ如ク補備的配備ヲ以テ甘ンズルニ至レリ。

三航空作戰準備

(1) 十號作戰準備下令セラレ、ヤ、32A次ノ如ク飛行場ヲ擴張新設シ同方面ノ航空作戰ニ遺憾ナキヲ期セリ。

- 德之島 一個
- 伊江島 二個
- 沖繩本島 北中南(未完成)
- 首里祕匿飛行場(未完成)
- 東飛行場 (〃〃)

海岸ハ小綠飛行場ヲ擴張スルト共ニ系滿秘匿飛行場ヲ設定セリ

(2) 燃彈關係

約1FD 月分ヲ各飛行場ニ分派配置ス

(3) 航空地區部隊ノ配置



四兵站(本島)

十號作戰準備下令後糧秣ハ臺灣ヨリ移送シ辛ジテ全兵額ニ應ズル昭和二十年九月頃迄ヲ保有セリ。彈藥約一會戰分其ノ他軍需品ハ主トシテ九州方面ヨリ集積セラレタリ。

五通信

島内各兵團トノ有無線連絡ハ勿論各島間及九州臺灣トノ航空系地上系通信ハ殆ンド完備シアリ

第五 兵團ノ素質

一 軍司令部

(1) 軍司令部編成完結後約一年ニシテ部内諸業務漸ク圓滑トナレリ

(2) 軍司令官牛島滿中將ハ昭和十九年 月第二代司令官

トシテ^精任、同中將ハ部内ニ於テモ人格者トシテ知ラ

レ支那ニ於テ旅團長トシテ勇名赫々如何ナル難局ニ

際シテモ悠々迫ラザル概アリ

(3) 軍參謀長長勇中將ハ豪放ニシテ曾テ張鼓峯事變ニ勇

戰シ南方軍總參謀副長トシテ政務ニ關係シ其ノ後滿

洲ニ於テ對戰車戰^{研究}ニ努力セラレタリ

昭和十九年 月沖繩ニ着任セリ

(4) 參謀部

高級參謀ハ陸軍大學校兵學教官トシテ長ク勤務シ紳士的人物トシテ參謀部内ノ團結ハ必ズモ甚良好ナラス

二 各兵團

(一) 旅團ニシテ師團(兵十)

(1) 62Dハ編制上次等師團ニ屬スルモ支那ニ於テ討伐作戰ニ從ヒ實戰ノ訓練ヲ經アリ

第七 作戰經過

一 空襲開始ヨリ本島上陸迄

三月中旬敵機五機ハ機動部隊ハ九州四國一帯ヲ空襲シタル後三月三日ヨリ南シ南西諸島ニ空襲ヲ開始

從來大本營ノ判断ニ依レバ四月上旬頃津浦方面ニ

敵機五機ノ算アル旨承知シテ三月廿七日午時大正洋全敵ノ船舶状況ハ原ニ西方ニ向ク活潑ニ連航シタル旨通報

セラレタリ

在九州海軍等五航空艦隊ハ敵ノ機動部隊ニ対シ相
當ノ打撃ヲ與ヘ敵ハ西方ニ向ク退避シタル旨
報ニ接シテ三月廿七日ノ空襲ヲ以テ上陸作
戦ノ序幕ハ判断シテ三月廿四日

三月廿五日ノ空襲ニシテ

敵ノ艦砲射撃開始セララル、ニ及ヒ上陸ノ算大

トナリ

「甲戦備」下令セラレタリ

註 32A

甲(敵ノ上陸作戦ニ対スルモノ) 乙(空襲

及潜水艦ノ射撃ニ対スルモノ) 丙(敵ニ対シ警戒スルヲ要スル場合)ノ三種ニ区

分セラリタリ

15

2. 敵艦船群ハ當初那霸西方海面及湊川正面ニ現カスリ

作戦主任參謀ハ敵上陸正面ヲ北中飛行場及湊川正面

ニ於テ攻勢ヲ採ルニ決シ處置スル所アリ、即チ湊川

地区方面ニ対シ軍砲兵主力ノ陣地变换一部北方正面

ヲ六十ニ師団ヨリノ兵力抽込之ナリ。

~~由シテ敵ノ南北ニ正面ニ在リ、我々感シ、最後は此部~~

~~ヲシテ、我々得ル所ヲ北中ニ於テ、現案ノ戦況ニ對ス~~

~~ル處置ヲ進シ、我々六十ニ師団戦力ノ過直被殺ニ招キ、~~

~~作戦指導~~

~~本隊、弱根ヲ高ナリ~~

3. 慶良間列島ノ戦鬪

イ、軍ハ水上特攻五個戦隊ヲ慶良間(三戦隊)那霸地區(二

戦隊)湊川地區(一戦隊)ニ配置シ敵上陸正面ニ全カヲ統合

シテ攻撃スル如ク計画シアリタリ

然ルニ敵ハ三月二十五日ロセ三ノ慶良間列島ニ対シ

舟艇百隻ヲ以テ急襲上陸セリ

水上特攻戦隊ハ之ニ対シ攻撃スルノ進ナリ直チニ陸

上戦鬪ニ移リ大部ハ潰乱シ一部ハ山間ニ退避スルノ止

ムナキニ至ル

註 山間ニ退避セル一部ハ爾後比較的長ク搜索據点ヲ無線立列舟ニ

依リ連絡シアリタリ

（）艦長岡田力大船船泊地、船船修理及我々航空特攻村に南寄

據果、本島前偵偵、如シ

伊勢

口、単ハ戦カ發揮不能トナリタル特攻戦隊ニ対シ、
本島ニ轉移ノ軍命令ヲ下令セシモ、
ノモノヲ除キ大部ノ轉用ハ不可能ナリキ

ハ三十一日ニ到リ、慶伊勢島ニモ一部上陸セリ

三、三十一日ハ、神山島ニ対シ、
戦車一五ヲ以テ上陸直チニ迫、
リ、時日ノ至過ト共ニ野戦重砲八一ニ門高射砲若干

ヲ上陸セシメ本島ニ対シ、
敵砲兵力ハ大ナルモノニアラスト、
効果ヲカラス、之ニ対シ、
テスル対砲兵戦ヲ実施シ、
ノ痛痒ヲ感セリ

二、敵ノ本島上陸ヨリ主陣地前方ノ作戦
三、四月一日ハ、敵ハ大型母艇約一五〇隻、
艇約六〇隻ヲ以テ嘉手納海岸ニ上陸ヲ開始ス、
其ノ後、
海西ニハ戦艦巡洋艦級約一〇、
陸ヲ支援シアリ、又、
弋セシメ、防動セリ

証、上陸状況（本文中、
第一波（ロ九九〇ローニハ）

北谷 八
桑江 五
残波岬 四

弱体... 敵軍... 依敵指揮... 統帥... 強行... 小荷... 浪... 召... 味...

四 第二回總攻撃中止ノ経緯

1 四月六日ロニ三〇敵ハ津笠島ニ対シ上陸シ〇六〇〇之ヲ曳退ス

全日敵ハ和守慶一南上原ハ我如古一八五高地一牧港ノ主陣地ヲ攻車シ宜野湾街道以西ノ第一線陣地ヲ奪取ス

2 四月六日夜半台湾軍ヨリ第一軍三十二軍ハ北中飛行場ニ向ヒ攻車スベシ一攻車開始ハ四月八日トス一トノ電報命令アリ

命令ハ第一回總攻撃ニ企図セシ場合ニ同様依敵軍任... 手就中同時聯合艦隊

及第一航空軍總力ヲ擧ケテ第一回航空總攻撃ヲ実行セシトシ企図シ策應スルノ要アリシノミナラス敵ノ湊川上陸モ杞憂トナリ茲ニ六日一四〇〇前構想ニ準ジ

八日ヨリ攻勢ヲ発動スル軍命令下達セララル

3 七日第一線各方面共ニ戦斗激烈ナリ

一五〇〇頃浦添沖ニ約百十隻ノ敵船団現出シ停船ナリ... 我側面ニ対スル上陸ニ関シ懸念セララルニ至リ夕刻遂ニ軍ハ本攻勢ヲ中止スルノ止ムナキニ至レリ

五 第三回攻撃ノ経緯

ル軍司令部ニ於テハ八日午後ニ至リ兩師團ヲ並列シ夫
有力ナル部隊ヲ以テスル攻勢ニ關スル是非及方法等ニ
關シ更ニ研究ヲ促進スルト共ニ同夜一部ヲ以テ斬込夜
襲ヲ實施セルモ大ナル成果ヲ收ムルニ至ラザリキ

2. 當時我陸海軍航空部隊ノ攻撃威力甚大ニシテ航空
母艦戰艦巡洋艦等ニ對スル撃沈破戦果着々擧リ本島周

邊ノ艦船~~州~~戰巡級一二隻内外驅逐艦級一八ヲ~~敵~~外トセリ

3. 四月十日頃ニ至ルヤ敵艦艇群ノ勢力激減セラレタ
ルモノ、如ク~~敵~~主力~~敵~~我視界外ニ去ルモノ多ク來襲

機數亦激減ス

聯合艦隊モ亦壯烈ナル電命ヲ下達ス日ク

(一) 諸情況ヲ綜合スルニ敵ハ動搖ノ兆アリテ戰機將ニ

7142

七分三分ノ兼ネ合ヒニ在リ

曰聯合艦隊ハ此ノ機ニ乘ジ指揮下一切ノ航空戦力ヲ投入總追撃ヲ以テ飽ク迄天號作戰ヲ完遂セントス

4. 津堅島ニ對シ〇八三〇舟艇約八〇隻(兵力ニ大隊ト判断)ノ敵兵上陸ス

5. 我主陣地正面ノ敵ハ第一線約五〇〇〇戦車約一〇〇〇ニシテ主陣地前縁爭奪ノ紛戦ヲ惹起シアリ

6. 右ノ諸情勢ニ應シ軍ハ再ビ攻勢ヲ實施スルノ要ヲ感ゼリ然レドモ敵ノ縦深ニ亘ル戦勢ノ浮動ハ既ニ止ミ

主戦力ハ我カ陣前近クニ集中シアルニ鑑ミ先ツ主戦力集中地帯ノ敵ヲ掃滅スルヲ得策トシ十二日夕ヨリ大規模ナル陣前出撃ヲ爲スニ決ス(十日決定)

7. 十一日軍ハ和宇慶一五五高地一四一高地我如古

嘉敷北側地隙ノ線ヲ保持モシアリ
8. 軍ヲ定ムル攻勢ヲ結果ハ兩師團(第二十四師團ハ步兵)

第三十二聯隊ヲ第六十二師團ノ右翼ニ加入セシムル
勢兵力十分ナラズ攻勢ノ意志モ亦堅確ヲ缺キ大ナル成

果ヲ收ムルニ至ラザリキ

本作戰ノ統帥上ノ要相ニ就テ
在戦上ニ任來謀ハ軍命令ニ忠實強ク是是達スルニ由ト

本軍ノ内師團ノ行動ヲ拘制シ自他ノ要點前線約ノ思想

本軍ノ如キ掃蕩ヲ實施セ
前ノ本軍團ヲ兼テ對シ
攻襲是ノ島ヲ日曠ニシテ大ナル未ダノ用ヲルコ

本件ハ軍情報主任參謀 關知太郎所ニ又第百二十一